

2023年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年9月1日

上場会社名 ピープル株式会社

上場取引所 東

コード番号 7865 URL <https://www.people-kk.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役兼代表執行役

(氏名) 桐渕 真人

問合せ先責任者 (役職名) IR担当

(氏名) 飛田 留美子

TEL 03-3862-2768

四半期報告書提出予定日 2022年9月2日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 2023年1月期第2四半期の業績(2022年1月21日～2022年7月20日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年1月期第2四半期	4,120	127.6	406	1,801.6	398	2,362.1	276	2,472.5
2022年1月期第2四半期	1,810	—	21	—	16	—	11	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年1月期第2四半期	63.13	—
2022年1月期第2四半期	2.45	—

(注)1.当社は、2021年1月期第2四半期は連結業績を開示しておりましたが、2022年1月期第1四半期より非連結での業績を開示しております。そのため2022年1月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2.第1四半期会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、2023年1月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年1月期第2四半期	2,956	2,268	76.7	518.40
2022年1月期	2,785	2,311	83.0	528.40

(参考)自己資本 2023年1月期第2四半期 2,268百万円 2022年1月期 2,311百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年1月期	—	0.00	—	78.00	78.00
2023年1月期	—	0.00	—	—	—
2023年1月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)2023年1月期の配当につきましては、通期業績見通しと連動して勘案する方針でおりますため、年末商戦状況を見極めた上で期末配当予想を発表させていただきます。

3. 2023年1月期の業績予想(2022年1月21日～2023年1月20日)

2023年1月期第3四半期累計期間業績予想(2022年1月21日～2022年10月20日)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第3四半期(累計)	6,283	74.7	556	128.7	546	125.7	377	124.9	86.12

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注)当社の通期業績は、年末商戦期間(10～12月)の業績に大きく左右されます。本来通期業績予想を掲げるべきではありますが、このような玩具市場の特性に鑑み、直近で見通せる次期四半期の予想を掲げさせていただきます。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年1月期2Q	4,437,500 株	2022年1月期	4,437,500 株
② 期末自己株式数	2023年1月期2Q	63,352 株	2022年1月期	63,279 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年1月期2Q	4,374,201 株	2022年1月期2Q	4,374,221 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
【第2四半期累計期間】	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
【第2四半期累計期間】	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更等)	7
(セグメント情報等)	7
3. 補足情報	8
カテゴリ別販売の状況	8
①第2四半期累計期間売上高	8
②新発売商品及び主なりニューアル商品	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、第1四半期会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。詳細は、「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更等)」に記載のとおりであります。なお、前第2四半期累計期間及び前第2四半期会計期間との会計基準が異なるため、以下文中の売上高前年同期間比につきましては、参考として記載しております。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間の我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症が依然として猛威をふるいつつも、行動規制等の緩和に伴い、次第に飲食やレジャー産業を中心に活性化し始めました。一方、急激な円安の進行やウクライナ情勢の長期化に伴い、輸入品類の価格値上げが実施される等、消費に影響を与えました。

そのような中ではありますが、当第2四半期累計期間、当社は好調な業績となりました。

海外販売では、米国向け「Magna-Tiles」で6月に発売した新セット「Magna-Tiles Dinosシリーズ」が流通の期待で、早くも年末に向けた流通の在庫確保に動き出している様子がかがえまします。また、当該輸出においては、円安により為替レートの前年比較の面でも、大幅な増収となりました。しかし、上半期からコロナ禍による供給不安定の中で、流通側が早めに在庫を確保したい思惑が働いていると思われ、既に年間分相当の出荷をしていることから、下期にはわずかなリポートオーダーにとどまるものと推測しております。

他方、国内販売において、当社をとりまく玩具市場では、商品購入よりもレジャー等の外出へ消費が向かう傾向が強まったことで、業界全体として停滞感が漂っております。このような中であって、当社商品は好調なセールアウトを確認しておりますが、前期末に受けた大量のリポートオーダーによる反動から、当第2四半期累計期間売上としては前年同期間を下回る動きとなりました。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高は、41億20百万円(前年同期間比127.6%増)となりました。

利益面においては、売上原価については円安による仕入額の増加が当社の利益構造に大きく影響し、国内販売による利益は大幅に減少しました。円安による全体への影響は当第2四半期累計期間では輸出売上と輸入仕入でほぼ拮抗していることから、国内販売利益の減少分を海外販売で補っている状況です。また、経費面では例年並みの費用発生であったことから、当第2四半期累計期間の営業利益は4億6百万円(前年同期間比1,801.6%増)、経常利益は3億98百万円(同比2,362.1%増)、四半期純利益は2億76百万円(同比2,472.5%増)となりました。

(パーパス制定後の企業活動の進捗)

当社は4月に新たな経営方針としてパーパス「子どもの好奇心が、はじける瞬間をつくりたい!」を制定しました。これは当社の強みを最大限に発揮する新商品・新事業の研究開発にリソースを集中し、収益性を根本的に改善していくための指針となります。

具体的な課題への落とし込み、社員の行動指針の策定などを同時進行で協議を重ねております。

活動としましては、企業としての認知を高め、外部の協力者を得ることを目標に、企業活動そのものを外部に向けてメディアやSNSを通じた発信をしております。(当社発信のnote URL: https://note.com/people_pr/)

また、社内では、パーパスを主軸とした新規事業発案促進のため、企画部門のみならず管理部門等も含めた社員全員を対象に、新事業アイデア一斉提案の場を設ける活動を始めました。

- ・広報チームを立ち上げ、メディアやSNSを用いた情報発信を始めました。

(当社発信のnote URL https://note.com/people_pr/)

すでにいくつかの取材のお申し込みや、協業のお申し出をいただいております、手応えを感じています。

- ・おもちゃとジェンダーをテーマとした活動に着手しました。

(<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000132.000045493.html>)

- ・パーパス実現のため、社員とともに「行動指針」策定のためのワークショップを継続的に行っています。
- ・パーパスを具体的な事業として実現するため、全社を挙げて新事業・新商品アイデア提案を、コンペ形式で行う「P-1グランプリ」の第1回を開催しました。上位は事業具体化に向けてプロジェクトをスタートしていきます。
- ・リスク管理チームを立ち上げ、当社を取り巻く優先的なリスクをピックアップ、具体的な管理体制の構築に進んでおります。

(カテゴリー別の概況)

- ・海外販売

第1四半期に引き続き当第2四半期も米国向け出荷が相次ぎ、当第2四半期累計期間の前年同期間比で473.1%となりました。米国の大手量販店での取り扱いを主として、「Magna-Tiles」シリーズが定番品および新商品(Dinos)等の展開と同シリーズの需要見込みによる在庫確保のため、前期のコンテナ不足による入荷遅延を避ける目的もあり当期は早い段階から大量注文が寄せられたことによります。

また、中国向け販売では知育の「やりたい放題」を中心に、その他のアジア向けでは「ピタゴラス」が数量は僅かであるものの、売上加算されました。

・乳児・知育玩具

当カテゴリーは、「ピタゴラス」シリーズを主軸に堅調に推移しました。当シリーズでは、新商品「ダイナミックダイナソー」や造形とボール転がしも楽しめる「ボールコースターサウンド」も発売し、シリーズの拡充を図っております。

・ドール・メイキングトイ (旧女兒玩具)

当カテゴリーでは、メイキングトイ「ねじハピ」シリーズをリニューアルしながらチャレンジを続けております。

・遊具・乗り物

屋内遊具、自転車類は、定番としての一定の需要はあるものの、ともに消費がレジャーへ向かった影響を大きく受け、売上が減少しました。

・その他 (育児・家具)

育児のお風呂用品「ラッコハグ」の人気のに伴い、当カテゴリーは国内販売では唯一前年同期間を上回る売上となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末から1億71百万円増加の29億56百万円となりました。資産の部では、主に、夏季商戦に向けた仕入の増加等で商品が増加したことや金型等固定資産の投資に伴い、流動資産、固定資産ともに前事業年度末から増加しました。

負債では、流動負債で主に仕入に伴う支払債務の増加により、負債合計で前事業年度末から2億15百万円増加し、6億88百万円となりました。

純資産合計は、四半期純利益計上の一方、配当支払等により、前事業年度末より44百万円減少し22億68百万円となり、結果、自己資本比率は76.7%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末より89百万円増加し13億93百万円となりました。主な要因は次の通りです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益の計上の他、主に当四半期末商品買い付けに伴う仕入債務の増加、法人税等の支払等の結果、5億24百万円の収入となりました(前年同四半期は3百万円の支出)。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に金型等固定資産の取得により96百万円の支出となりました(前年同四半期は34百万円の支出)。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払により3億40百万円の支出となりました(前年同四半期は2億62百万円の支出)。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

(第3四半期累計期間 業績予測)

次第3四半期(2022年7月21日～2022年10月20日)は、国内販売は乳児・知育玩具を中心に上半期までの推移から大きく変化なく依然として厳しい状況が続く見通しで、前年同期間を若干下回ると見ております。この国内の下振れを海外販売で補える予想ではあるものの、海外販売も上半期をピークに出荷量は次第に減少していくと見ております。従いまして、第3四半期累計期間(2022年1月21日～2022年10月20日)の売上高は、国内海外総合で前年同期間比74.7%増の62億83百万円の見通しです。

売上原価につきましても、現状の為替レート水準が続くと見て、輸入品の原価高に伴い売上総利益率も上半期並と予想しております。

経費面では、次期に向けた研究開発費等を一定量見込み、経費合計ではわずかに前年同期間を上回る発生見通しです。従いまして、第3四半期累計期間営業利益は5億56百万円の前年同期間比128.7%増、経常利益は5億46百万円の同比125.7%増、四半期純利益は3億77百万円の同比124.9%増を各々見通しております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年1月20日)	当第2四半期会計期間 (2022年7月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,304,925	1,393,617
受取手形及び売掛金	477,494	358,154
商品	397,436	693,597
原材料	6,073	1,420
その他	237,374	66,524
貸倒引当金	△1,373	△1,168
流動資産合計	2,421,930	2,512,146
固定資産		
有形固定資産	105,068	167,760
無形固定資産	32,815	29,961
投資その他の資産	225,335	246,355
固定資産合計	363,218	444,076
資産合計	2,785,147	2,956,222
負債の部		
流動負債		
買掛金	100,094	356,098
未払法人税等	154,316	130,048
その他	219,392	202,538
流動負債合計	473,802	688,685
負債合計	473,802	688,685
純資産の部		
株主資本		
資本金	238,800	238,800
資本剰余金	162,705	162,705
利益剰余金	1,864,130	1,799,073
自己株式	△34,267	△34,362
株主資本合計	2,231,369	2,166,216
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	79,977	101,321
評価・換算差額等合計	79,977	101,321
純資産合計	2,311,346	2,267,537
負債純資産合計	2,785,147	2,956,222

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年1月21日 至 2021年7月20日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)
売上高	1,810,250	4,120,434
売上原価	1,122,597	3,108,735
売上総利益	687,653	1,011,699
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	95,957	71,250
販売促進費	70,873	41,513
運賃	86,811	84,144
役員報酬	34,903	34,903
給料及び手当	75,320	74,577
退職給付費用	7,963	8,372
支払手数料	58,714	75,864
研究開発費	105,641	107,975
その他	130,111	106,916
販売費及び一般管理費合計	666,293	605,514
営業利益	21,360	406,185
営業外収益		
受取利息	6	46
受取配当金	1,420	2,933
その他	114	285
営業外収益合計	1,539	3,264
営業外費用		
為替差損	6,729	11,300
その他	0	6
営業外費用合計	6,729	11,307
経常利益	16,171	398,142
税引前四半期純利益	16,171	398,142
法人税、住民税及び事業税	483	121,750
法人税等調整額	4,953	260
法人税等合計	5,437	122,010
四半期純利益	10,734	276,132

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年1月21日 至 2021年7月20日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	16,171	398,142
減価償却費	24,306	63,407
売上債権の増減額 (△は増加)	92,011	119,340
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△133,007	△291,509
仕入債務の増減額 (△は減少)	56,884	256,005
その他	56,915	120,389
小計	113,279	665,774
利息及び配当金の受取額	1,425	2,979
法人税等の支払額	△117,876	△144,591
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,172	524,163
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△32,828	△95,634
無形固定資産の取得による支出	△958	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△33,785	△95,634
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	-	△95
配当金の支払額	△262,094	△339,466
その他	△138	△43
財務活動によるキャッシュ・フロー	△262,231	△339,604
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,206	△276
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△300,395	88,648
現金及び現金同等物の期首残高	1,417,853	1,304,630
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,117,458	1,393,278

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスに対する支配を顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は、次のとおりであります。

・顧客に支払われる対価に係る収益認識

販売促進費として販売費及び一般管理費に計上していた、顧客に支払われる対価の一部を、売上高から控除して表示する方法に変更しております。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合は、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は1,922千円減少、販売費及び一般管理費は1,922千円減少しましたが、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響はありません。また、利益剰余金期首残高に与える影響もありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従い、前第2四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下、「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

当社は、玩具及び自転車等乗り物類の企画・販売を事業とする単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

3. 補足情報

カテゴリー別販売の状況

①第2四半期累計期間売上高の前年同期間対比

(単位 千円)

カテゴリー名	2022年1月期 第2四半期 (自2021年1月21日 至2021年7月20日)	2023年1月期 第2四半期 (自2022年1月21日 至2022年7月20日)	前年同期比(注2) (%)
乳児・知育玩具	619,939	604,466	97.5
ドール・メイキング玩具(注1)	123,867	112,997	91.2
遊具・乗り物	351,610	273,485	77.8
その他(育児・家具)	71,554	86,173	120.4
海外販売	643,280	3,043,313	473.1
合計	1,810,250	4,120,434	227.6

(注1) 旧女兒玩具

(注2) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)を第1四半期会計期間の期首よりを適用しており、当該会計基準等を適用した後の数値となっておりますが、影響額が軽微であることから前年同期間売上高との比較比率を参考値として記載しております。

②新発売商品及び主なりリニューアル商品

カテゴリー名	商品名	標準小売価格 (税込)
乳児・知育玩具	ピタゴラスシリーズ「ピタゴラスWORLD ダイナミックダイナソー」	¥9,680
	ピタゴラスシリーズ「ひらめきのプレート+ (プラス)」	¥14,300
	ピタゴラスシリーズ「ピタゴラスBASIC知育いっぱい! ボールコースターサウンド」	¥8,250
	「水と空気の4STEP知育マット」	¥4,400
	「五感シゲキット」	¥3,300
ドール・ メイキング玩具	ドール「クッピーラムネぼぼちゃん」	¥5,500
	ドール「ぼぼちゃん専用 クッピーラムネコーデセット」	¥1,760
	「ねじハピ デコ&カスタムDIYセット」	¥4,950
	「はじめてのねじハピ おうちデコDIYセット」	¥4,950
遊具・乗り物	「ケッターサイクルII」(12、14、16、18インチ 計7種)	各オープン価格